富山新聞2023年6月18日付

富大附属病院グループ研究

1歳半幼児、入浴時に石けん
アトピー、アレルギー減

富大附属病院小児科の加藤泰輔診療助手らの研究グループは、1歳半ごろに入浴時にせっけん類をあまり使わなかった子どもは毎回使っていた子どもに比べ、3歳時点でのアトピー性皮膚炎や食物アレルギーのリスクが高まるという研究成果を発表した。

環境省が2010年度から実施する疫学調査「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」に参加する子ども7万4349人を対象に、1歳半時点での入浴状況と、3歳時点でのアレルギー疾患の発症の関連を調べた。せっけん類の使用頻度が少なくなるにつれて、3歳でアトピー性皮膚炎、食物アレルギーと診断される子が多くなる傾向があった。

これまでの研究で、皮膚に黄色ブドウ球菌が多いとアトピー性皮膚炎が発症しやすくなることが分かっており、せっけんで皮膚の細菌をしっかり洗い流すことが予防に重要と考えられる。

成果は医学誌「パディアトリック・アレルギー・アンド・イミュノロジー」に掲載された。